



浅野川中学校だより

あさのがわ通信



第33号 令和8年7月6日発行
金沢市立浅野川中学校
Email asanogawa-j@kanazawa-city.ed.jp
学校ホームページURL
<https://kanazawa.schoolweb.ne.jp/1720013>

* 学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

本物の伝統文化に触れる「観能教室」 ～加賀宝生(かがほうしょう)の歴史を学び、感性を磨く～

3年生は、明日7日(火)石川県立能楽堂で、金沢の伝統文化を肌で体感する「観能教室」に参加します。本物の舞台上、プロの能楽師による能や狂言を鑑賞するこの行事は、金沢市の中学生にとって大変貴重な、そして誇るべき伝統的な行事となっています。今回は、事前学習も兼ねて、この観能教室の歴史や金沢の能楽文化について紹介します。

金沢市における中学生を対象とした観能教室の歴史は古く、昭和24年(1949年)にまで遡ります。終戦直後の混乱と物資が不足していた時代、「次代を担う子どもたちに、豊かな感性と郷土の優れた伝統文化を伝える心の教育を」という、当時の教育関係者や能楽界の強い熱意によって始まりました。以来、75年以上の長きにわたり、時代を超えて金沢の中学生に受け継がれています。全国的に見ても、これほど大規模かつ継続的に中学生向けの能楽鑑賞を行っている自治体は極めて稀です。



金沢の能楽(加賀宝生)には、歴史的な深い背景があります。江戸時代、加賀藩の前田家(特に5代藩主・前田綱紀公)は能楽を深く愛し、手厚く保護しました。綱紀公は江戸から「宝生流」の役者を招き、加賀藩の「式楽(公式な芸能)」と定めたのです。前田家は武士だけでなく、町人や職人にも能を習うことを奨励しました。その結果、植木職人や大工さんが木に登り、仕事をしながら謡を口ずさんでいたことから、「金沢の空からは謡が降ってくる」と他国から評されるほど、能楽が街全体に息づく文化となりました。明治維新や戦争という大きな時代の荒波を乗り越え、今なお金沢に「加賀宝生」の伝統が生き続けているのは、こうした歴史があるからです。

🔍 観る前のワンポイント：能と狂言の違い

現代の演劇や映画に比べると、能楽は「難しそう」と感じるかもしれません。しかし、基本を知ると一気に面白くなります。

芸能の種類	内容の特徴	主な役割
能	悲劇や歴史上の物語。美しいお面(面・おもて)をつけ、歌と踊りで構成される「ミュージカル」のようなもの	人間の情念、神仏、幽霊などを描く
狂言	当時の日常生活を描いたセリフ劇。思わずクスッと笑ってしまう現代の「コント」や「コメディ」のようなもの	現代にも通じる人間の「お調子者な一面」や「失敗談」を描く

🎧 3年生のみなさんへ 本物の一流に触れる心の準備を

現代はスマートフォンやインターネットで、いつでも手軽にエンターテインメントに触れられる時代です。だからこそ、「何百年も変わらない型やセリフ」を、「マイクを通さない生の響き」で体感することには、特別な価値があります。演者の足拍子が響く舞台の床の音、張り詰めた空気感、そして美しい衣装。五感をフルに使って、金沢が世界に誇る伝統芸能の「カッコよさ」を肌で感じてきてください。



ご家庭でもぜひ、金沢の歴史や文化について話題にいただければ幸いです。